

ホームページの日記から

<http://homepage2.nifty.com/usagidayori/>

2月14日 **聞こえない人のために**

「聞こえない・聞こえない方と家族のためのセミナー」に参加した。耳鳴りが絶えずしていると、難聴者の方々の、外見からはわからない悩みを知ることができた。高齢のご夫婦など、多くの方が参加していた。私の父もそうだが、高齢で耳が遠くなる人も多いと思う。新しい補聴器も開発されており、その紹介もあった。補聴器は音を大きくすることはできても、

音を判別することはなかなか難しいそうだ。ゆつくり話しかけることが大切とのこと。

4月4日 **音楽ライブ**

「ソルジャー」は大盛況

近隣の友人達で作っているタッチの会で行った、韓国・朝鮮の音楽ライブ「ソルジャー」には、たくさんの方々に来ていただいた。東京朝鮮高級学校民族管弦楽部の生徒さんの演奏は、心を打ち大好評だった。東京チャングオオーケストラの迫力ある太鼓や美

しい舞もすばらしかった。



4月19日 **地域の支え合いが必要**

区長との懇談会を行った。重い障がいのあるお子さんを連れて参加された方が多く、介護疲れで家庭が崩壊しそうなこと、レスパイトの場が必要であること、養護学

校の通学バスに医療的ケアが常時必要な子どもが乗れなかったことなど話が出された。近隣とのつながりが欲しくて、思い切つて、町会の餅つきに出かけたことなどの話も出された。レスパイトはもちろんのこと、地域での支え合いが必要とされている。区長は前向きに取り組むとのこと。

4月29日 **緊急一時保護センター 練馬寮を見学**

路上生活者の緊急一時保護センターは23区の各ブロックごとに持ち回りで設置することになっている。練馬寮は廃校になった都立高校の校舎を使っている。緊急一時

保護センターに1ヶ月居た後、自立支援センターに移り、就労支援を受ける。就労できない高齢者等には生活保護をかけアパートへの入居を支援する。来年度緊急一時保護センターと自立支援センターが一緒になった新型自立支援センターが、中野に作られることになる。地域の理解が何よりも必要だ。



佐藤ひろこの活動日記から

- 2月
 - 1 中野一丁目町会等主催もちつき大会お手伝い
 - 2 東部福祉作業所見学
 - 4 聴覚障害者情報活動センターインタビュー
 - 5 杉並区障害者緊急一時保護施設等を調査
 - 6 城山稲荷講初午会
 - 7 障害者防災委員会
 - 10 議会運営委員会/朝日友好親善中野・杉並新春の集い
 - 11 みどりの未来シンポジウム
 - 12 谷戸ほのほのフアミソリー合唱団
 - 14 聞こえない・聞こえにくい方と家族のためのセミナー
 - 17~20 本会議
 - 21 野村生涯教育センター懇談会
 - 22 講演会「心と体を大切にすることって」
 - 23 本会議
 - 24 予算特別委員会
 - 25 劇場MOMO(中野3丁目)で「サララン」を観劇
 - 26~27 予算特別委員会
- 3月
 - 2~3 予算特別委員会
 - 4~6 予算特別委員会厚生分科会
 - 6 補正予算内示/リトリック研究会
 - 7 さくら館まつりコーラス・区民ふれあいの集い
 - 8 さくら館まつりお手伝い
 - 9 谷戸小地域安全マップづくり/フィールドワーク
 - 10 予算特別委員会
 - 11 本会議
 - 12 障害者防災委員会/タッチの会
 - 13 中小企業退職金共済会理事会/厚生委員会
 - 14 中野のみみ保育園/バーサロン/中野卒園式立派目主セミ
 - 15 区民相談/ホームレス法的支援入門講座
 - 16 厚生委員会/西武新宿線沿線まちづくりシンポジウム
 - 17 厚生委員会/福田秀人立教大学院教授退任記念の会
 - 18 防災まちづくり特別委員会/区民相談
 - 19 中卒卒業式/ノンジャンルビルビジネス全国フォーラム
 - 20 ハイティーン会議発表会/区民相談
 - 22 障害者防災訓練
 - 23 本会議
 - 24 谷戸小卒業式/ひよひよはる見学
 - 28 新井薬師児童館開館式
 - 30 コミュニティ政策研究会
 - 31 小規模多機能ホーム(俱樂部千代田会館開所式)
 - 4月
 - 5 区立哲学堂公園東京都勝沼指定記念式典
 - 6 谷戸小入学式/自治体議員政策情報センター幹事会
 - 7 九中入学式/タッチの会
 - 9 障害者防災委員会
 - 15 手話奉仕員養成講習会開講式
 - 16 タイランド/トリボ/勉強会「厚生労働省の子育て支援策」
 - 17 野村生涯教育センター一般講座
 - 17~18 生活保護問題議員研修会
 - 19 住民自治をすすめる会「田中区长との懇談会」
 - 21 クローカルセミナー「老いる都市の行方」
 - 22 厚生委員会
 - 26 桃が丘さゆり保育園開園式
 - 「議会改革は市民に開かれているか」シンポジウム
 - 27 コミュニティ政策研究会
 - 28 中野区の子育て支援策取材
 - 29 東京女子大学園遊会/緊急一時保護センター・練馬寮見学
 - 30 立命館大学院「障害者の生活・教育支援」研究会

うさぎだより

中野区議会議員・無所属 佐藤ひろこ

【事務所】〒164-0001 中野区中野1-33-9 TEL/FAX 3368-9107 [区議会] 〒164-0001 中野区中野4-8-1 無所属控室 TEL 3228-8874
 http://homepage2.nifty.com/usagidayori/ mail: usagidayori@nifty.com 編集・発行: 住民自治をすすめる政策研究会

厳しい経済・雇用状況の中、セーフティネットのしくみをしっかり作っていくことが、大変重要になってきています。2009年第一回定例会では、「地域支え合いのネットワークづくり」と、「障がい児・者への支援策」について質問しました。本会議場での一般質問は、一括質問、一括答弁形式で行われますが、「うさぎだより」では、わかりやすくするために、個々の質問事項への答弁という形で、短くまとめてあります。詳しくはホームページを見て下さい。質問当日は、作業所に通う方々や保護者の方々など、大勢傍聴に来てくださり、その熱い思いに胸がいっぱいになりました。切実な願いを受け止めて、だれもが安心して暮らし続けられるように、がんばります。

だれもが地域で暮らし続けられるように

緊急一時保護と 自立体験プログラムを 早急に

佐藤 障がい児・者の緊急一時保護への要望は従来から強く寄せられているが、いまだに解決されていない。知的障がい児・者の保護者の団体である「愛育会」が、昨年、会員に行ったアンケートで、一番困っていることは、「緊急時に安心して預ける場所が足りないこと」だった。



今年度、中野区が行った障害福祉サービス意向調査で、主な介助者が親である場合は、知的障がい者では約75%にもなる。金銭管理で約70% (写真中野区で初めて児童館が学校の中に入った「キッズ・プラザ」は大好評。大勢の子ども達に喜ばれている。

の知的障がい者が介助を必要としている。また、60歳~70歳代の親が半数近くを占めており、高齢化する親への支援も必要となっている。

親が病気の時などに利用できる「緊急一時保護」、親が体を休めることができる「レスパイト」、本人が親と離れて宿泊を練習できる「自立体験プログラム」などが、親子の支援として必要とされている。しかし、これらのサービスが中野区では、大変不足している。緊急一時保護などの必要性についてどのように認識し、どう充実していくのか。

区長 障がいのある方とその家族が地域生活を継続していくことを支援するために、障がいのある方やお子さんなどを家庭から離れたところで一時的にお預かりすること

は、重要な施策であると認識をしている。また、家庭から離れてグループホーム等に移行するためには、事前に体験できるような場を確保することも必要で、取り組んでいきたい。

日中一時支援の充実を

佐藤 障がい者の日中の居場所と、家族の就労支援や一時的な休息のために、日中だけ預かることができる「日中一時支援」の場も増やすように、2年前から質問してきた。障害福祉計画で今年度までに5ヶ所実施する計画だが、まだしらさぎホーム1ヶ所だけだ。どうなっているのか。

区長 実施について事業者との調整をすすめているところで、2ヶ所が近く開始できる見込みだ。

質問その後

区はもっとやる気を!

「日中一時支援を近く2ヶ所開始する見込みだ」という、2月23日の区長の答弁に多くの傍聴者は喜んだ。しかし、3月の厚生委員会で具体的に報告することだったが、報告はなかった。まだ調整中なので、4月の厚生委員会には報告することでも、4月の委員会でも報告がなかった。新しい障害福祉担当課長に聞くとまだ検討中とのこと。区長答弁はウソだったの。早急に開始するべきだ。

東女 旧体育館が解体に

私の母校、東京女子大学の旧体育館は、大正期に建てられた近代西洋建築で日本に現存する一番古い体育館。レーモンドが設計し暖炉やバルコニーもあり、歴史的価値がある。しかし、5月末で取り壊されるということで、存続を求める要望書を瀬戸内寂聴さん永井路子さんから200名の有志者が出した。私も参加した。

新聞各紙も大きく取り上げているが、取り壊されることに。なんとか残せないものか。

写真：旧体育館の隣の味気ないビルは、同じくレーモンド建築の東京を取り壊して建てた校舎。



DV被害者などへ 定額給付金を

佐藤 定額給付金を厳しい状況に立たされている人達にも届くようにするべきだ。ところが、支給には住民票が必要なので、派遣切りなどで住まいを失ったホームレス状態の人や、DVから逃げていて住民票が作れない人には届かない。届くようにするべきだ。

ひとりでは申請をすることが困難な高齢者や障がい者の人への支援はどのように考えているのか。

区長 定額給付金をホームレス状態の方など、住民登録をしていない方についても適切に支給をするべきだということ

とで、その方法について総務省、国とも協議をしている。定額給付金について良く理解できない高齢者の方などに、区の窓口などで、充分に説明ができる態勢をとっていききたい。また、民生委員やサービス提供事業者の方などにも、充分に説明を行って、ご相談に対応できるようにしていきたい。

DV被害者への 定額給付金の 支給が実現

住民票がなくても、相談があり区内に住んでいることを確認できれば、中野区に逃げてきたDV被害者に、定額給付金と子育て応援特別手当を支給することになった。

居場所等が確認できるホームレスの人への支給もできるように国と協議し、区として検討をすすめている。

議場に 日の丸が

区民から、本会議場に国旗の掲揚を求める請願と、国旗を掲げることに反対する請願が出された。

日の丸につらい思いの人々もいる中、自治体の議場に掲げる必要が、今あるのだろうか。私は反対したが、国旗の掲揚を求める請願が賛成多数で採択され、掲げることに反対する請願は賛成少数で否決された。次の定例議会から本会議場に国旗と中野区旗が掲げられることになった。

ショートステイの 充実を

佐藤 杉並区にある社会福祉法人が運営する、短期入所施設クローバーでは、定員5人の宿泊のショートステイと、定員4人の日中一時支援を行っている。宿泊枠5人のうち1人分は緊急対応として確保し、送迎サービスも行っている。緊急時にも日中一時支援にも利用できるということなどで好評だ。このような所が中野区にも必要だ。

中野区では、従来のしらさぎホームに加えて、江古田の森障害者支援施設や、2月にできたグループホーム「江原ハイツ」でもショートステイ

が実施される。しかし、緊急時には対応できない。緊急時にも対応できるショートステイを誘導するためには、事業者への支援が必要ではないか。

区長 グループホーム併設等による短期入所事業を実施するための施設整備に対して、区は経費の一部を補助している。こうした補助を含めながら事業者の誘導策について検討し、可能なものから講じてまいりたい。

利用しやすい 制度設計を

佐藤 中野区では、緊急一時保護は区の単独事業、シヨ

トステイは自立支援法の事業と、制度も施設もわかれていたが、利用者にとっては、シヨトにも緊急一時保護にも、利用できる施設が希望されている。どのように制度設計をはかっていくのか。

切実に助けを必要としていても、どこにも受け入れられずに家族で抱え込まざるを得ない人達がいる。最悪の事態を迎えてしまうことがないよう、親が安心して子どもを託せる環境整備を！

区長 施設によつては緊急一時保護しかできないという場合があるが、可能なところでは両方の事業ができるようにしていきたい。

支え合いのネットワークづくりを

孤独死の防止を

佐藤 中野区の一人暮らし高齢者はこの5年間で急増し、65歳以上の4人に1人が一人暮らしである。うつ、ひきこもりなどの人達も多くなり、50歳代での自殺や孤独死も増えている。

近隣でも、孤独死が発見されることもある。区では、孤独死の防止を掲げ「地域支え合

いのネットワークづくり」に向けて重点プロジェクトをすすめているが、区長は孤独死についてどのように認識しているのか。

区長 孤独死は区が把握している限りでも、年十数件ある。核家族化や高齢化の進展によつて一人暮らしの世帯が増加し、また、近隣関係が大変浅いことなどから、地域から孤

立するという状況もある。

必要な人には 生活保護で自立支援を

佐藤 一昨年、北九州市で餓死した孤独死の事例が大きく報道され、生活保護行政のあり方が全国的に問題になった。その後、北九州市では、生活保護行政検証委員会がもうけられ、改善が行われた。検証委員会の報告書では、不正受給には厳しく対処すべきだが、申請してきた人に申請書

すら渡さず、結果的に死に追いやることには決してしてはならないと、いましている。

年末年始、派遣切りなどで仕事や住まいを失った人達に、寝る場所を提供し、生活保護をかけ、仕事に復帰できるように、民間と行政が協力して緊急支援が行われた。必要としている人には生活保護をかけ、自立の道を歩めるように継続して支援することが、今、必要だと思う。区長の見解は。

区長 生活保護をセーフティネットとして確実に運用していくということが大切だ。困窮する人を守る最後の手立てであるということを充分認識をしていかなければならない。



さくら館まつりでカレールーづくりをお手伝い

見つける・つなげる。 見守る

佐藤 北九州市は、孤独死問題の警鐘から、「いのちをつなぐネットワーク」事業をすすめている。地域の仕組みと行政の力を結集し、見守りと支援を行う。「見つける」「つなげる」「見守る」がキーワード。市は「いのちをつなぐネットワーク」推進課を新設し、出先機関に担当係長を配置。「見つける」役割は、水道の検針員や町会の人達など。担当係長は「つなげる」コーディネーター。必要な人には「見守り隊」を立ち上げる。だが、どうつなぎ、どう支援するのか、が分かり易い。

区の「地域支え合いネットワーク」は、だれが、どうつなぐのか、具体的に見えない。区では、支え合い活動のコーディネーター役を担う職員の配置、新たなしくみに基づいた情報提供の開始など計画しているが、どのように考えているのか。

区長 区や各種団体、関係機関との連携によつて、支え合い活動をどのようにコーディネートし、支援していくのかという仕組みづくりが重要な課題だと認識をしている。

高齢者会館で 入浴できます

区から廃止が提案されていた高齢者会館等のお風呂を残すことができた。自宅にお風呂がなく遠くのお風呂屋さんまで歩けない、お風呂があっても身体状態等で1人で用意するのは大変であるなど、入浴がむずかしい60才以上の区民なら利用できる。

今まで入浴していた方は1年間継続できる。6月から利用登録が始まり、7月から新しい入浴事業が始まる。利用料は300円。週3日今までの通りの曜日に利用できる。申し込みは高齢者会館や地域包括支援センターへ。

人権を考える講座第4回
在日コリアン3世から見た日本
演劇を通して伝えたいこと

人間の国を求めて行動した作家
小田実さんを偲んで
お話 澤地久枝さん 鶴見 俊輔さん 他
7月18日(土) PM1:30~5:30
参加費 1500円
韓国YMCAアジア青少年センター(休通線)
主催:実行委員会

お話 鄭光誠(チョン・ガンソク)さん
(中野育ちの役者・演出家)
7月4日(土) PM2:00~4:00
参加費 300円
中野男女共同参画センター一研修室
(中野駅南口 勤労福祉会館2F)

2008年度政務調査費収支報告

住民自治をすすめる政策研究会
(議員1人月15万円×12ヶ月)

1.収入	政務調査費	1,800,000円
2.支出	研修費	207,258円
	調査費	88,510円
	旅費	280,720円
	資料費	1,047,393円
	報聴費	2,200円
	事務費	96,000円
3.残額(区に返還)	54,591円	

佐藤ひろこの収支報告

2009年2月~2009年4月

収報	2月	3月	4月
収入	647,000	647,000	647,000
支出	9,000	24,000	36,000
税金	81,160	81,160	81,160
年金	177,210	177,210	109,460
生活費	48,346	69,276	112,488
積み立て	9,000	24,000	36,000
残	¥340,284	¥319,354	¥177,930
残			¥343,892

*議会に出席すると1日につき3,000円の費用弁償がつく。なくすべきだ。区への返金は法的にできないので、積み立て、区外の団体に寄付をしている。